2026年度のワークショップ概要

2026年度WS開催日程（ワークショップ各回90分　＋30分は高校生向けの質疑応答）
午前：10時～12時　（第6回は10時30分～12時30分）
午後：13時30分～15時30分　（第5回は14時～16時）
各回定員50名程度

日時・場所	テーマと概要（案）
6/13(土) 10時～12時 新潟大学 五十嵐キャンパス	**第1回　異文化理解，異文化間コミュニケーション：多様性を“自分ごと”として考える90分** 身近な家族や親しい友人とやりとりするなかで「わかってもらえなかった」「通じなかった」経験をしたことはありませんか？ 本ワークショップは、言語や文化の違い、価値観のズレ、そして障害まで含めた多様性をテーマに、他者を理解し尊重し合う関係づくりのための視点を体験的に学びます。参加者同士のワークや留学生によるディスカッションを通して、「違い」があるからこそ生まれる気づきや共生のあり方を探ります。将来、社会に出るうえで欠かせない「相手理解力」を育てる第一歩となる講座です。 体験例：異文化間での価値観比較（Cultural Values Clarification）トーク「それってどこの常識？」「普通って誰の普通？」/「異文化衝突（Critical Incidents）解決隊：何が問題？」
6/13(土) 13時30分～ 15時30分 新潟大学 五十嵐キャンパス	**第2回　病気とともに学ぶこともたちの未来を考える** 病気で入院している子どもたちが、病院の中で授業を受ける大切な場所として「院内学級」があります。しかし、そこには多くの子どもたちが直面している「教育の壁」があります。「友達と一緒に卒業したい」「病気でも夢を諦めたくない」 そんな当たり前の願いを叶えるために、今の教育制度や環境には何が足りないのでしょうか？院内学級の実際や、ICT の活用による活動の広がりなどの事例をもとに、院内学級の現状を知り、テクノロジーと人の手を使って、『どこにいても、どんな体調でも、ワクワク学べる環境』を作るなら、どんな仕組みが必要かなどについて、一緒に考えてみませんか。
7/18(土) 10時～12時 新潟大学 駅南キャンパス ときめいと	**第3回　ヤングケアラー：普通の顔で学校に来ているけれど** 家族に病気や障害のある人がいる子どもやきょうだいが、家事やケアを担うことがあります。こうした「ヤングケアラー」は、周りから見えにくく、本人も「当たり前」と思っていることが少なくありません。この講座では、障害のある子どものきょうだいに焦点を当て、実際の声やケースをもとに、負担だけでなく強みやレジリエンス（ストレス耐性）にも目を向けます。身近な友人やクラスメイトの背景を想像しながら、「支える」「支えられる」関係について一緒に考えてみませんか。

7/18(土) 13 時 30～ 15 時 30 分 新潟大学 駅南キャンパス ときめいと	**第 4 回　集団心理から考えるいじめ問題** いじめは，学校現場において長年解決が求められてきた重要な課題です。近年の研究では，いじめは加害者と被害者の二者間に限らず，周囲のクラスメイトによる積極的・消極的な関与が，その発生や継続に大きく影響することが示されています。本講座では，グループワークを通じて，いじめが生じやすい集団力学（グループダイナミクス）を体験的に学びます。具体的には「人狼ゲーム」を教材として活用し，疑心・同調・排除といった集団心理のメカニズムを，ゲームというわかりやすい形で体感していただきます。ゲーム終了後は，プレイ中に感じたことを参加者同士で共有し，現実のいじめ問題との接点について対話形式でディスカッションします。 楽しみながらも，いじめの構造について深く考えるきっかけになる講座です。ぜひ気軽にご参加ください。
8/6(木) 14 時～16 時 新潟大学 五十嵐キャンパス	**第 5 回　きこえないって、どういうこと？声がなくても伝わる世界を体験する 90 分** もし、明日から音が聞こえなくなったら―― あなたはどうやって友達と話しますか？授業はどうやって受けますか？ 「呼ばれていること」に気づけるでしょうか。 私たちはふだん、当たり前のように「音」や「声」に頼ってコミュニケーションをしています。しかし、その前提が変わったとき、世界の見え方や人との関わり方は大きく変わります。 本講座では、聴覚障害当事者や手話通訳者とともに、「きこえない世界」のコミュニケーションを学びます。手話や情報保障に触れながら、声に頼らない伝え方や、誰もが学びやすい学校のあり方について考えてみませんか。
8/7(金) 10 時 30 分～ 12 時 30 分 新潟大学 五十嵐キャンパス	**第 6 回　臨床心理学の視点から令和の不登校を考える** 不登校児童生徒の数は，現在，増加の一途を辿っています。一見すると憂慮すべき事態のようにも映りますが，教育機会確保法の施行や新型コロナウイルスの流行など，背景にはさまざまな要因が絡み合っています。そのため，この現象に対して一概に善悪の評価を下すことは困難といえるでしょう。時代の変化に伴い，不登校に対する臨床心理学的支援のあり方もまた，変容を迫られています。 本講座では，近年の不登校児童生徒数の増加がどのような要因によるものかを多角的な視点から整理し，これからの時代に求められる臨床心理学的支援のあり方について検討します。

第 7 回以降の情報は随時更新